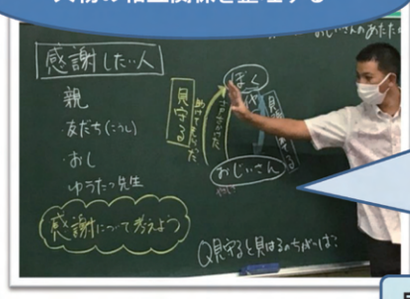
5 道徳:「おじいさんのあたたかな目　内容項目B　感謝」本時の様子

人物の相互関係を整理する



おじいさんは、ぼくを見守っている。ぼくは、おじいさんに見張られていると思っている。

見守ると見張るの違いってなんだろう？

話し合い活動

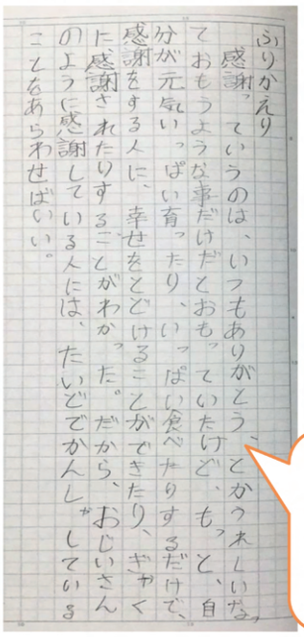
おじいさんは、大きくなって欲しい、気をつけて欲しい等の思いがある。

自分の身の回りにいますか？

自分事として考える

今日の学習をふり返る時間の確保

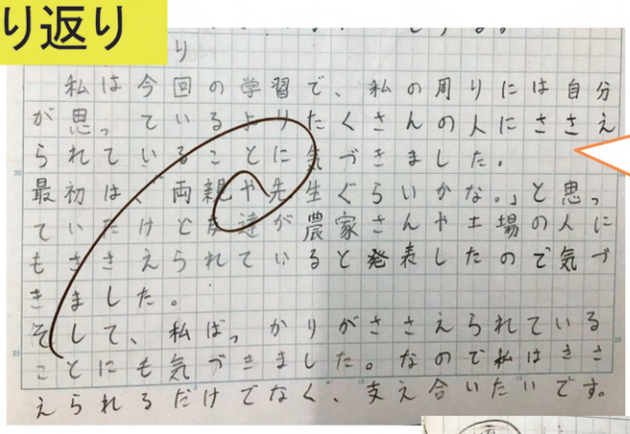
6 児童のふり返り



ふりかえり

感謝というのは、いつもありがとうとかうれしいなとおもうような事だけだとおもっていたけど、もっと、自分が元気いっぱい育ったり、いっぱい食べたりするだけで、感謝をする人に、幸せをとどけることができたり、ぎゃくに感謝されたりすることがわかった。だから、おじいさんのように感謝している人には、たいどでかんしゃしていることをあらわせばいい。

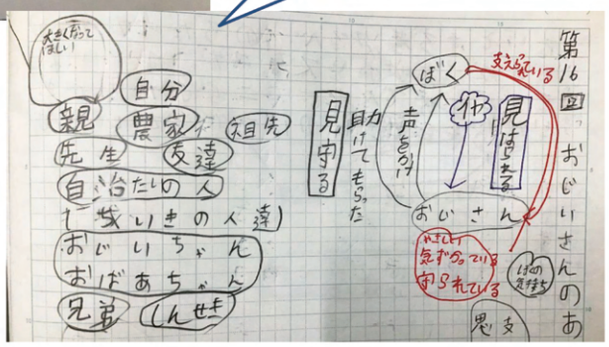
「感謝というのはいつもありがとう」と思うことだけと思っていたけど‥自分が元気いっぱい育ったり、いっぱい食べたりするだけでも幸せが届けられるとわかった。」



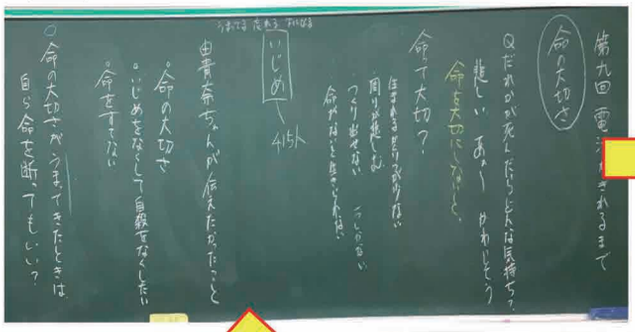
私は今回の学習で、私の周りには自分が思っているよりたくさんの人にささえられていることに気づきました。最初は、両親や先生ぐらいかな。」と思っていたけど友達が農家さんや工場の人にもささえられていると発表したので気づきました。そして、私ばっかりがささえられていることにも気づきました。なので私はささえられるだけでなく、支え合いたいです。

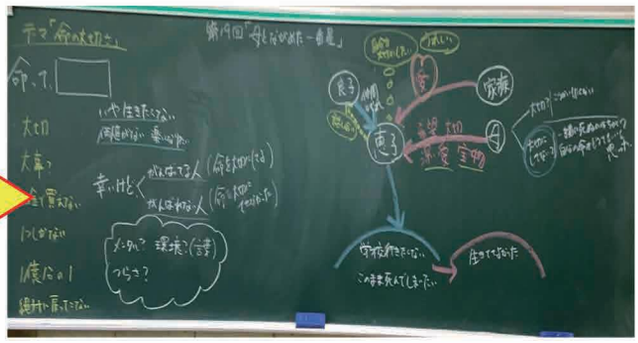
「最初は両親と先生ぐらいしか思いつかなかったけど‥学習を通して、私は自分が思っているよりもたくさんの人に支えられていることがわかった。」

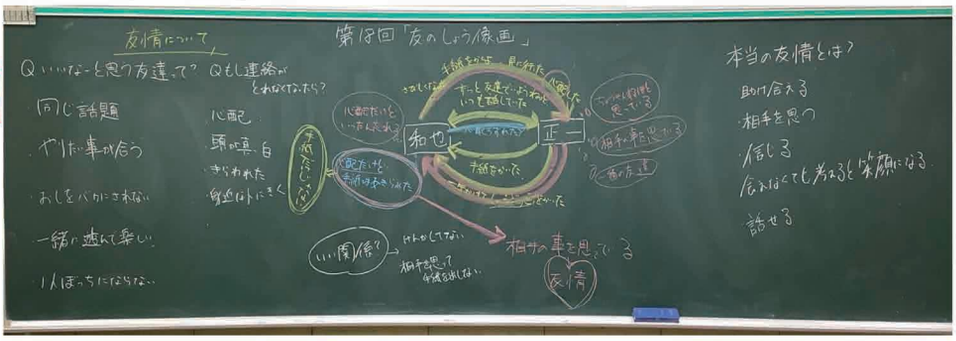
「自分を支えてくれている人」を思い出しながらノートにたくさん書き込む姿。



7 校内研までの取り組み







8 成果

- 構造的板書で僕とおじいさんの関係性を表すことで、気づかせたいねらいに迫ることができた。
- 児童の声を板書に生かし、思考の流れを足跡として残すことで主体的に学ぶ姿・参加しようとする子が増えてきた。また振り返りの際に、板書をもとに授業を見返し、自分の考えを深める様子が見られた。

☆構造的板書は、気持ちや相互関係など、捉えづらいことを視覚化できるので、話し合いや深く考えるための視点になり、交流を活発にしたり、考えを深めたりふり返ったりすることに有効な方法だとわかった。

- テーマ「感謝について考えよう」について、授業の最初と最後に考えさせることで、児童に自分の考えの変容を感じさせることができた。
- 教材研究を行っていく中で、考え・議論する道徳を目指すために授業の「ねらい」設定の重要性がわかった。児童の実態や気づかせたい価値をもとに、より具体的、詳細に「ねらい」を設定し、授業づくりをしていくことができた。

☆教師が授業のねらいをもち、児童にテーマを設定させることで、身につけさせたい価値から逸れることなく、深く考えさせることができた。

- 4月当初に児童を見とり、身に付けさせたい力（批判的に考える力）を学年で共有することによって、教科や単元の特性に応じて、付けさせたい力を意識した一貫した授業づくりをしていくことができた。
- ノートを見開き使用にし、授業中の板書は左側に自由記入、右側には必ず振り返りを書くとすることで、児童も自分なりに考えたことをノートにアウトプットしながら考えようとする姿が見られた。

課題

- 地域の人に支えられていることについても気づかせたかったが、そこに迫るような問い返しが少なかった。
- 児童に身に付けさせたい力を踏まえた授業づくりをより意図的、計画的に実践する必要がある。
- 自分の考えや振り返りが書けない児童への支援について有効な支援を考える必要がある。
- 児童に多様な考えを出させた際、拡散した意見をどう集約し、まとめていくのかという手立てが持てていなかった。教材研究時の課題なのか、授業展開における問い返し等の技能なのか、教材研究の力、指導技能を高めていく必要がある。
- **ICTを活用することで、発言では聞けなかった（授業内で拾いきれない、板書に表せられない）より多くの意見に触れることができたのではないか。未だ多数意見の価値が先行する授業づくりになっていることに気づいた。指導者がファシリテーターとして児童をつないでいく「協同的な学び」とICTを活用した「個別最適化」の学びの方法が融合した授業づくりを模索していく。道徳の授業展開として、拡散→集約→集約だけでなく、拡散→集約→拡散等、「考える道徳」を目指すため、多様な授業展開の構築が必要である。**
- 議論しやすいような場の設定　児童の多様な考えを出させ、テーマに迫る視点を焦点化していくことで、議論しやすい場面を創ることができたのではないか。